

第1部

S G H事業の概要

1. 平成 30 年度 主な SGH 事業年間一覧表

日付	内容	対象	備考
2018 年 4 月			
4 月 13 日～ 5 月 25 日	ロンドン大学 SOAS 校研修	スーパーグローバルクラス 2 期生	
4 月 27 日	恵泉女学園大学 タイフィールドスタディ報告	スーパーグローバルクラス 3 期生	講師:高橋清貴氏 (恵泉女学園大学教授) フィールドスタディ参加の同大学生参加
2018 年 5 月			
5 月 16 日	教育 IT ソリューション EXPO 講演 「Open Educational Resources について」		講演者:宮川典子(本校 SGH 事務局長) 主催:NPO 法人アスカアカデミー
5 月 18 日	Global Village ①	スーパーグローバルクラス 3 期生	
5 月 18 日	国際文化講演会 「日本人の生活文化」	スーパーグローバルクラス 4 期生	講師:酒井教雄 (学校法人佼成学園SGH推進本部長)
5 月 26 日	恵泉女学園大学スプリングフェスティ バル訪問	スーパーグローバルクラス 3 期生、4 期生	
2018 年 6 月			
6 月 1 日	国際文化講演会授業 「タイについて知ろう」	スーパーグローバルクラス 3 期生	講師:押山正紀氏 (恵泉女学園大学)
6 月 2 日	JICA 地球ひろば	スーパーグローバルクラス 3 期生、4 期生	
6 月 8 日	国際文化講演会授業 「タイのスラム街から」	スーパーグローバルクラス 3 期生	藤田哲平氏 (クリエイトディレクター)
6 月 15 日	Global Village ①	スーパーグローバルクラス 4 期生	
6 月 16 日	高大連携授業 「ペルーとボリビアの女性問題」	スーパーグローバルクラス 2 期生	講師:学生団体 S.A.L 生徒 (慶應義塾大学)
2018 年 7 月			
7 月 4 日～ 7 月 18 日	タイフィールドワーク	スーパーグローバルクラス 3 期生	協力団体:恵泉女学園大学・立正佼成会 バンコク教会(南アジア国際伝道センター)
7 月 7 日～ 7 月 10 日	ニュージーランド現地合宿	特進留学コース 14 期生	
7 月 12 日	世田谷区立烏山中学校出張授業	スーパーグローバルクラス 2 期生	
7 月 20 日～ 7 月 25 日	グローバルリンクシンガポール 2018	スーパーグローバルクラス 2 期生(代表生徒)	結果:社会課題部門 二位入賞
7 月 25 日～ 7 月 27 日	校内合宿	特進留学コース 15 期生	
7 月 25 日	講演会 「上座仏教と生活文化」	日本スリランカ青少年交流 参加生徒	講師:酒井教雄氏 (学校法人佼成学園SGH推進本部長)
7 月 26 日	講演会 「ヒンドゥー教徒とタミル人の生活文 化」	日本スリランカ青少年交流 参加生徒	講師:仲野省吾氏 (公益財団法人 庭野平和財団)

2018年8月			
8月2日～ 8月3日	夏合宿	スーパーグローバルクラス4期生	タイフィールドワーク事前研修
8月23日～ 8月30日	日本スリランカ青少年交流	日本スリランカ青少年交流 参加生徒	協力団体:ヴィサカ高校 (スリランカ現地女子校)・立正佼成会スリランカ教会
8月24日	教員研修	教員	講師:岡本尚也氏 (一般社団法人 Glocal Academy 理事長)
8月27日～ 8月29日	校外合宿	特進留学コース15期生	
8月29日	エジプト・アラブ共和国大使館訪問 文化交流	スーパーグローバルクラス 4期生	アフマド・エルバダウイ二等書記官の挨拶
2018年9月			
9月1日～ 2019年2月9日	アジア架け橋プロジェクト 留学生受け入れ開始		タイからの留学生受け入れ
9月8日～ 9月15日	ヴィサカ校 交換留学	全校	姉妹校提携先から4名の学生を受け入れ
9月26日	SGH校内研究発表会	全校生徒対象	
9月29日	SGH研究発表会	一般、受験生、大学教授対象	
9月29日	高大連携授業 「ウイグル問題」	スーパーグローバルクラス 2期生	SGH研究発表会内の公開授業
2018年10月			
10月5日	国際文化講演会授業 「女性の美しさ」	全学年・保護者	講師:大日向雅美氏 (恵泉女学園大学学長)
10月12日	Global Village ②	スーパーグローバルクラス 3期生	
10月13日	高大連携授業 「1960'sロックミュージックからの共生 を考える」	スーパーグローバルクラス 2期生	講師:林拓也氏 (青山学院大学 地球社会共生学部教授)
10月26日	Global Village ②	スーパーグローバルクラス 4期生	
10月27日	高大連携授業 「障害と差別」	スーパーグローバルクラス 2期生	講師:岡部耕典氏 (早稲田大学 文化構想学部教授)
10月31日	第1回運営指導委員会	教職員対象	
2018年11月			
11月9日	課題研究発表(ポスター発表)	スーパーグローバルクラス 4期生	講師:滝澤祥子氏 (横浜市立大学教授)
11月10日	国際理解及び国際協力に関する研 究発表	スーパーグローバルクラス 3期生 代表生徒	東京都国際教育研究協議会主催
11月16日	課題研究発表(ポスター発表)	スーパーグローバルクラス 3期生	

11月17日	高大連携授業 「平和構築と人間の安全保障～グローバル市民の責任と役割～」	スーパーグローバルクラス 2期生	講師:高橋清貴氏 (恵泉女子大学 人間社会学部教授)
11月19日～ 11月30日	シドニー大学研修	特進留学コース14期生	
11月30日	Global Village ③	スーパーグローバルクラス 3期生、4期生	
2018年12月			
12月12日	国際文化講演会授業 「ヘイトスピーチを考え抜く」	スーパーグローバルクラス 3期生、4期生	講師:大川真氏 (中央大学文学部准教授)
12月15日	SGH全国高校生フォーラム	特進留学コース14期生、スーパーグローバルクラス3期生代表生徒	
12月15日	帰国報告会	特進留学コース14期生	
12月18日～ 12月20日	冬合宿(アジア学院)	スーパーグローバルクラス 3期生、4期生、アジア架け橋留学生	タイフィールドワーク事前研修
12月18日～ 12月20日	冬合宿	特進留学コース15期生	
12月23日	立教大学主催 課題研究発表会	特進留学コース、スーパーグローバルクラス代表生徒	
2019年1月			
1月11日	GPSアカデミック	スーパーグローバルクラス 3期生、4期生	
1月19日～	ニュージーランド留学	特進留学コース15期生	
2019年2月			
2月8日～ 2月9日	第4回高校生国際シンポジウム	スーパーグローバルクラス3期生 KGG14期生 代表生徒	
2月20日	第2回運営指導委員会	教職員対象	
2月22日	研究テーマ発表	スーパーグローバルクラス4期生	
2019年3月			
3月15日	Global Village ④	スーパーグローバルクラス 3期生、4期生	
3月21日～ 3月28日	筑波・香港大学グローバルリーダーズプログラム研修生	スーパーグローバルクラス 3期生 代表生徒	
3月23日	SGH甲子園	特進留学コース14期生 スーパーグローバルクラス3期生 代表生徒	

2. 平成 30 年度 生徒在籍数・事業概要

● 生徒在籍数（平成 30 年度 3 月 1 日時点）

学年	在籍数	学年	在籍数
中学 1 年	40 名	高校 1 年	169 名
中学 2 年	30 名	高校 2 年	187 名
中学 3 年	34 名	高校 3 年	210 名
合計	104 名	合計	566 名
全校生徒数	670 名		

● SGH 事業概要

※事業概要については、構想調書より抜粋

課題研究について

課題研究内容

テーマ：「フィールドワークを通じた多民族社会における平和的発展の研究」

グローバル社会における重要な課題として、多民族社会がどのように平和的な発展を遂げるのか、それに対して日本や日本人がどう関わるべきかという問題があります。

その解決手法として、一つには異なる価値観を受け入れる寛容な精神風土（多文化受容力）の醸成、また、少数民族や女性などの経済的な自立などという課題に取り組みます。

具体的な研究テーマとしては、次のような事項が想定されます。

- ①少数民族や女性を包含する多文化受容力の醸成へ向けた支援活動
- ②フェアトレードによる経済的な自立へ向けた支援活動
- ③タイの難民政策とストリートチルドレンの実態

その前提として、本校が目指すグローバル・リーダー像を「『日本人としてのアイデンティティを認識しつつ異文化を理解する能力』と『異文化とコミュニケーションして影響力を及ぼす能力』を身に付け自立した女性」と定めます。

そして、①多民族社会における平和的発展へ向けた主体的かつ能動的な意識、②将来像やビジョンをグローバル社会と関連付けて描く自律的なキャリアプラン、③キャリアプランを実現するためのリベラルアーツ、この 3 点を指定期間中に生徒が習得することを目標とします。

こうした能力は、海外への進出により新しい市場を開拓する日本の経済活動にとって必要なだけではなく、複雑化し、多様化の進む 21 世紀の国際社会において日本がプレゼンスを高め、他国から尊敬される国家として発展を続けるために欠かせないものと考えています。また、こうした能力を習得するためには、単一の研究課題に基づく演繹的な能力開発に止まらず、複数の研究課題をフィールドワークという実践的な機会を活かして帰納的に統合するカリキュラムや教育ノウハウが求められます。

このため、今回の SGH において、生徒はフィールドワークを通じて「多民族社会における平和的発展」をテーマとする研究課題「異文化研究」を取り組みます。

また、「異文化研究」の過程で、研究課題「国際知識」で「多民族社会の平和的発展における巨視的な知識の研究」を取り組みます。

その際、個々の研究課題が自己完結することなく、研究課題を進める過程で別の研究課題と影響しあい、研究課題の成果が別の研究課題の成果につながるように、研究課題同士がより高いレベルへ止揚し、生徒が実践的な知見や能力を習得できるよう工夫します。

また、研究課題を教科として実践するために、【異文化研究】【国際文化】という学校設定科目を設けます。【異文化研究】は「異文化研究」、【国際文化】は「国際知識」という研究課題をそれぞれ包含

します。

従って、SGH における「多民族社会における平和的発展のあり方」という研究テーマは、【異文化研究】【国際文化】という学校設定科目で構成し、「異文化研究」「国際知識」という研究課題を実施することとします。

さらに、こうした研究課題の実践においては、本校の限られた人的資源、財的資源にのみ依存するものではなく、高大連携、国際機関や企業、団体との提携、学校法人佼成学園や同窓会をはじめとする本校を取り巻くさまざまな関係者からの支援を得ることにより、質の高い指導体制、実践的な研究を実現します。とりわけ、企業や団体、大学などから研究テーマに沿った専門的な人材を確保するよう努めます。

また、多様なアプローチで研究成果の普及を図ることにより、生徒、教員、保護者、本校自身、学校法人佼成学園、そして連携・提携する大学や団体など関係者のすべてにわたり、グローバル社会へ向けた意識の変容を導きます。

そして、こうした研究課題を実践するモデルクラスとして、国際化に重点を置く大学や海外の大学・大学院へ進学し、将来的にグローバル人材を目指すスーパーグローバルクラスを平成 27 年度に新設します。

スーパーグローバルクラスでは、1 年生において「国際知識」の基礎を身に付け、2 年生においてタイでの滞在学習で「異文化研究」を実践し、3 年生においてイギリスでの滞在学習で生徒自らが「多民族社会における平和的発展」というテーマを深掘りするとともに、「国際知識」を磨き、「異文化研究」のプレゼンテーションへ臨む、という一貫した教育の流れを実現する考えです。

また、多様なアプローチで研究成果の普及を図ることにより、生徒、教員、保護者、本校自身、学校法人佼成学園、そして連携・提携する大学や団体など関係者のすべてにわたり、グローバル社会へ向けた意識の変容を導きます。

さらに、課題研究の成果を検証するため、以下の表に掲げるよう、特進留学コース留学クラスやスーパーグローバルクラスを中心としながら、それぞれのコースにおいて取り組む研究課題や学校設定科目に差を設け、その成果を比較できるように努めます。

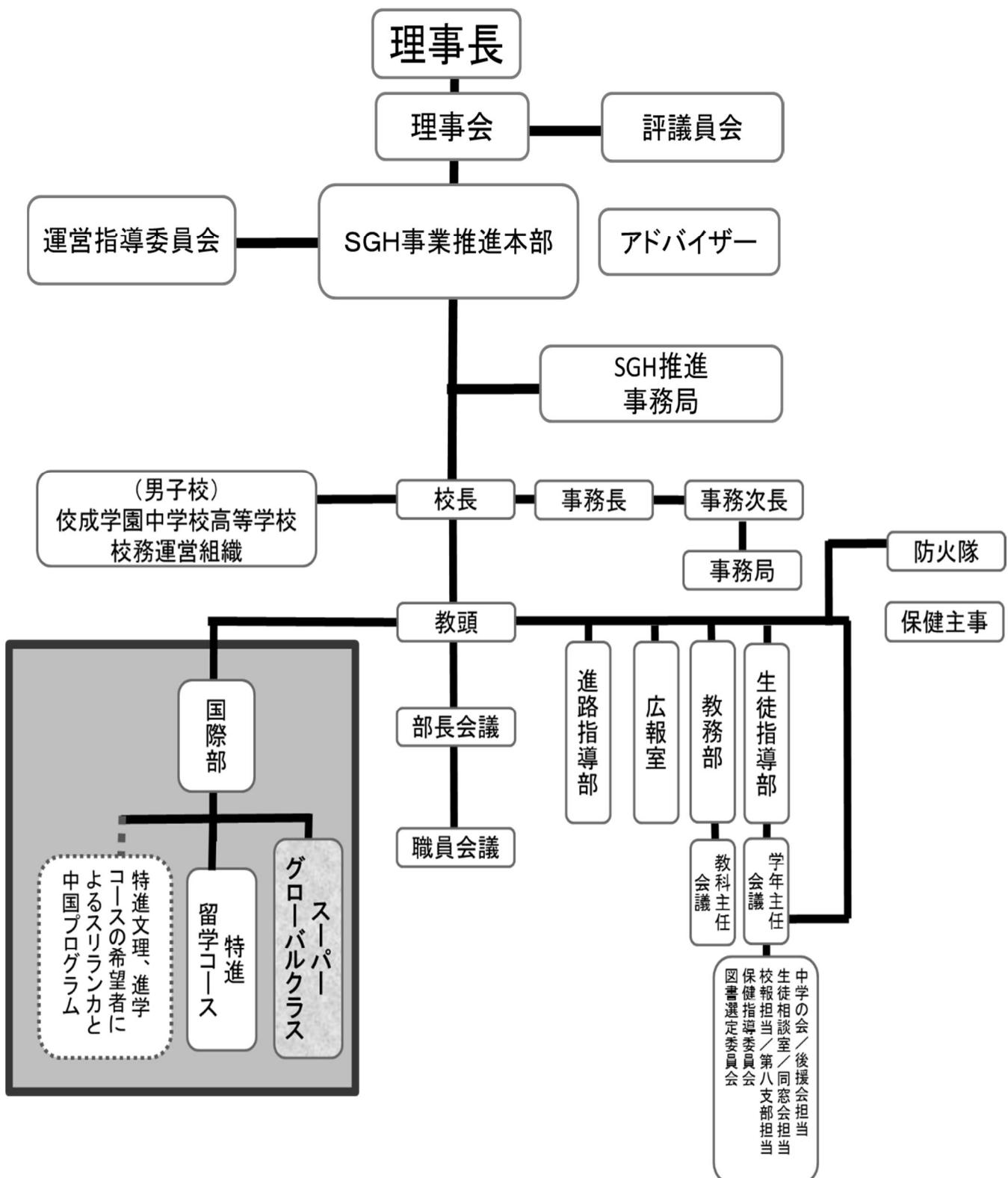
とりわけ、特進留学コースとスーパーグローバルクラスではフィールドワークを通じて「多民族社会における平和的発展」をテーマとする研究課題「異文化研究」へ同様に取り組ませ、その成果を論文化し、校内外で発表させますが、その他の研究課題や課題研究以外の研究開発への取り組みには違いがあるため、スーパーグローバルクラスで研究課題や課題研究以外の研究開発を総合的かつ平行的に取り組んだ成果がどう現われるか、容易に比較検証できるものと考えています（特進留学コースでは「国際知識」を部分実施するため）。

※○は実施、△は一部実施、×は実施しない。

研究課題	異文化研究	国際知識	
学校設定科目	異文化研究	国際文化	
課題研究以外の 研究開発			英語コミュニケーション力
日本スリランカ青少年交流、中国宋慶齡基金会国際青少年サマーキャンプを実施する進学、特進文理コース	○	○	×
上記プログラムを実施しない進学、特進文理コース	×	×	×
特進留学コース	○	△	○
スーパーグローバルクラス	○	○	○

3. SGH 組織図、運営指導委員、SGH 事務局編成

- ・SGH 推進運営組織図



平成 30 年度スーパーグローバルハイスクール運営指導委員

氏名	所属・職名	所属機関の URL
植木 安弘	上智大学 総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授 国際協力人材育成センター所長	http://www.sophia.ac.jp/
岡田 基幸	一般財団法人 浅間リサーチエクステンションセンター センター長・専務理事 信州大学 繊維学部 特任教授	http://arecplaza.jp/
真田 幸光	愛知淑徳大学 ビジネス学部 教授	http://www.aasa.ac.jp/
正垣 泰彦	株式会社サイゼリヤ 代表取締役会長	http://www.saizeriya.co.jp/
岸本 昌子	一般財団法人日本国際協力センター 常務理事	http://sv2.jice.org/

平成 30 年度スーパーグローバルハイスクール事業推進事務局員

氏名	職名 (担当教科)
宮川 典子	佼成学園女子中学高等学校 国際部長・SGH 推進事務局長 (英語科教諭)
築瀬 誠	佼成学園中学高等学校 教頭
浦田 さゆり	佼成学園女子中学高等学校 生徒指導部長 (社会科教諭)
二木 宏明	佼成学園女子中学高等学校 教務部長 (数学科教諭)
楓 淳一郎	佼成学園女子中学高等学校 広報室副室長 (国語科教諭)
秋田 聰大	佼成学園女子中学高等学校 国際理解科主任 国際部 (国語科教諭)
崎山 隆則	佼成学園女子中学高等学校 国語科主任 国際部 (国語科教諭)
神田 和憲	学校法人佼成学園・佼成学園女子中学高等学校 事務長
出射 見奈子	佼成学園女子中学高等学校 国際部助手

4. 運営指導委員会実施報告

平成 30 年度 第 1 回運営指導委員会

実施日：2018 年 10 月 31 日（水）

場 所：佼成学園女子中学高等学校 大会議室

参加者：

<運営指導委員> ※五十音順（敬称略）

岡田 基幸 氏

岸本 昌子 氏

<学校法人校成学園>

SGH 推進本部長：酒井 教雄 理事長：椎名 啓至 常務理事：橋本 敬一
理事：増田 信俊 事務長：神田 和憲

<校成学園女子中学高等学校>

校長：宍戸 崇哲 教頭：石川 浩和 事務主管：安達 佳正

SGH 推進事務局長：宮川 典子

事務局員：浦田 さゆり・二木 宏明・楓 淳一郎・出射 見奈子（※司会）

1. H29 年度に挙がった課題の取り組み状況、SGH 指定後の課題について

①課題：専門研究分野に対する指導

- 複数の専門家からはフィールドワーク実施前に専門的助言は受けていないことが課題との指摘があった。
- 課題研究を進めるうえで量的調査（アンケート）だけではなく質的調査を行っていく必要がある。
- 教員のスキルアップが必要不可欠となる。

②事前学習の体系化に対する今年度の取り組み

- 国際文化授業：シラバスを作成し、課外活動や講演会の設定時期の調整を行う。
1年次：夏休み中に実施する合宿で街頭インタビュー調査を行い、調査結果を英語で発表。
2学期には高校2年生とポスターセッションを行い、3学期には思考力調査を受験。
- 2年次：1学期に恵泉女学園大学学生と相互訪問を行い課題研究内容の発表。
2学期～3学期に日本語で研究論文を作成。またポスターを作成し事前にロンドン大学 SOAS 校と研究内容を共有する。
- フィールドワークの方法を英語と日本語で段階的に学習できるよう1年次から指導。
- 論文指導のバックアップ体制
複数の教員で論文に対する指導について情報共有し、指導ポイントを明確化。

③H30 年度高大連携授業の取り組み

- 昨年に引き続き大学教授を招いて授業を行う。今年度から大学生によるワークショップ型授業を行う。そのことから主体的な姿勢へと繋がった。また、近隣の世田谷区立鳥山中学校で本校生徒主体の授業を行い、受ける側から提供する側を体験。ファシリテーターの難しさを実感することができた。

④SGH 校としての普及

- 9月に学内、学外向けで研究発表会を行った。
- 昨年度の SGH 全国高校生フォーラムで優勝したことにより、全校生徒に課題研究を発表する場が設けられ、聴衆側の生徒たちも SGH の取り組みについて理解を深めることができた。
- 学内向け発表会のアンケートを実施したところ、生徒たちからは社会的な課題を探求する意欲や関心が高まったと回答する生徒が8割になった。自由記述欄の中でも「課題研究に対する興味が沸いた」、「社会情勢をもっと勉強したくなった」などの意見があった。しかし、教員対象のアンケートでは、英語が分からぬ聴衆側へのフォローが必要であるという指摘や開催時期見直しについて意見が多く、次年度の課題としたい。

- ・ 学外向け発表会では、公開授業を実施。また一般（受験生など）も招き課題研究発表を行った。

⑤SGH 指定後の展望 一総合学習委員会の立ち上げ -

- ・ これまでの SGH 事業で取り組んできた探求学習を次年度から全校で実施できるよう総合学習委員会を立ち上げた。
- ・ 身近な社会問題から課題調査を行い、徐々に国際社会の中の社会問題に関する研究調査が出来るよう指導していく。

⑥SG クラス理系新設

- ・ 2019 年度入学生徒から、高校 2 年次に理系または文理選択可能とする。
- ・ 明確な専門性を持つことが、グローバル社会で活躍できる人材を育成することに繋がると考え、文理横断の学びを推進していく。

⑦SGH 指定後の課題について

・ SG クラスのプログラム内容の見直し

　　タイフィールドワークでは調査時の言語の問題があり、直接インタビューが難しい。

　　また、フィールドワークは短期滞在での調査のため体験学習の傾向に傾いている。その為、テーマを決めて現地に赴いても、帰国後に調査不足が生じることがある。そのため生徒たちの中には帰国後テーマを変更する者もいる。いつ、どの段階でテーマ設定を行うのかは検討が必要。

　　留学コースの生徒に比べて SG クラスは 4 技能をバランスよく持った本質的な英語力を身につけるのは難しい。授業だけでは日常的に英語を使う機会が少ないので、改善が必要。

・ 全校的な探求学習の実施について

　　全コース、クラスの特徴を生かしながら、どのように課題研究を進めていくかを検討。

- ・ 探求学習を行う上で、どのような ICT の使い方が効果的かを模索していかなくてはならない。
- ・ 教員の意識を高めていく。また、教材研究を行い指導の均質化とスキルアップが必要。

⑧21 世紀型教育推進に向けての課題

- ・ アクティブラーニングと従来型学習のバランスが必要。
- ・ SGH テーマに沿って各教科と連携を取っていく（教科横断型）。
- ・ 英語 4 技能を身に付けられるような英語指導の体系化。（英語科内でも指導方法を共有する必要がある）。

2. 質疑応答・協議

Q. タイ以外でのフィールドワークを行う場合、どのような国が考えられるか。

A. 現在本校ではスリランカヴィサカ高校との交換留学を行っているが、スリランカへ派遣した後にタイ・フィールドワークを行うことも考えている。

Q. 課題研究発表をする際の言語問題をどのように解決していくべきか。大学ではどのような形で行っているのか。

A. 発表言語については、ケースバイケースになるが、英語でチャレンジすることも大切ではないか。英語で発表する生徒の姿勢を聞き手に見せることが大切。しかし、英語を不得意とする生徒たちが理解できるような工夫を考えなければならない。

スクリーンを英語と日本語両方映し出せるような工夫をする。大学では英語と日本語両方で行

い、基本的な説明は日本語だが、専門用語は英語も混ぜている。大学授業内ではディスカッションなどで日本語使用を許可するが、プレゼンテーションでのワークシートでは英語で書かせている。段階的に英語にしていく方が良い。

Q. 総合学習の全体イメージについてアドバイスを頂戴したい。

A. 中小企業との連携を視野に入れるはどうか。SDGsに取り組む企業団体ともコラボレーションをして探求学習を行うことも可能ではないか。

事前学習の中で統計学やフィールドワークの方法論を学び、課題研究をすることが望ましい。

海外に目を向けることと同時に、日本について学ぶ時間を入れたらどうか。日本について学ぶ機会を増やし、自ら日本の魅力を発信できることで海外でのフィールドワークで比較検証が出来る。

平成30年度 第2回運営指導委員会

実施日：2019年2月20日（水）

場 所：校成学園女子中学高等学校 大会議室

参加者：

<運営指導委員> ※五十音順（敬称略）

岡田 基幸 氏

岸本 昌子 氏

<学校法人校成学園>

SGH 推進本部長：酒井 教雄 理事長：椎名 啓至

理事：増田 信俊 事務長：神田 和憲

<校成学園女子中学高等学校>

校長：宍戸 崇哲 教頭：石川 浩和

SGH 推進事務局長：宮川 典子

事務局員：浦田 さゆり・楓 淳一郎・出射 見奈子（※司会）

2. SGH 指定5年間の振り返り

① スーパーグローバルクラス、特進留学コースの課題研究指導経過について

・SG クラスはH28年度から課題研究メソッドのテキストを使用。

・指導の均質化をするため教員同士で情報共有の場を設けた。

・特進留学コースはH28年度から海外フィールドワークの指導体制を構築。質的調査や参与観察を取り入れ、きめ細かな指導体制を整えた。

② 校内外向けプレゼンテーション

・H29年度から課題研究に取り組めるような環境を整え、公的大会への出場も積極的になった。

・第4回高校生国際シンポジウムでは優秀賞受賞し、立教大学主催の課題研究発表会では金賞受賞。生徒たちが自ら考え行動を起こしていくようになったのは課題研究をし、多面的な視点で物事を考えらえるようになったためと分析している。

③ 自律的キャリアプラン

- ・高校3年生を対象に昨年度からアンケートを実施している。「SGHでの課題研究が大学での専攻分野の選択に影響を与えたか」という質問に対して、多くの生徒が「影響があった」と回答。また、「SGHでの国際交流経験が大学の専攻分野の選択に影響を与えたか」という質問に対して、今年度は半数の生徒が「影響があった」と回答している。
- ・SGHのプログラムに参加したことにより、より一層大学で研究を深めたいという意欲が湧き、ロンドン大学SOAS校に進学する生徒もいる。

④ 異文化研究、国際知識、英語授業の機能的統合

- ・異文化研究、国際知識、英語授業全てがリンクし、海外フィールドワークに繋げられるような指導体制を整えている。異文化研究でのテーマを国際知識の授業で英語で行う機会を設けている(海外からの大学院留学生との交流)。またそのための英語を使えるよう通常の英語授業で4技能をバランスよく指導している。一つのトピックに対して多方面から学ぶことで見地が広また。

⑤ 国際交流活動の更なる充実

- ・文部科学省が主体で行っているアジア高校生架け橋プロジェクトに参画し、タイの留学生1名を受け入れた。また、姉妹校提携しているスリランカの学校から4名の交換留学生を受け入れ、本校からも3月9日から生徒を派遣する。

⑥ 英語力

- ・H27年度からSGクラスでは全体的に8割以上の生徒が2級以上を取得している。(内2名が1級取得者)また特進留学コースは準1級以上取得の生徒数は右肩上がりであり、今年度の高校3年生は83%が準1級以上を取得している。課題研究をしっかりと行い、ライティング部分で成果を上げたことが大きな理由であると分析している。

⑦ 教員の意識の変容

- ・全教員がSGH事業に関わることはできなかったが、アンケートを実施したところ「SGHの取り組みを実施したことにより本校のグローバル教育の内容を充実させることができた」という質問では回答した教員全員が「該当する」と選択していた。SGH事業を始めたことにより、今後の探求学習実施に弾みがつく結果だと言える。

⑧ 5年間のSGH事業を終えての課題

- ・タイフィールドワークでの課題設定および調査期間、言語の壁。
- ・論文指導、課題研究指導の均質化。
- ・シドニー大学研修での大学側担当者との情報共有。また、研究を深めるための地域選定。
- ・日本スリランカ青少年交流での課題研究方法とその指導方法。
- ・海外フィールドワークでの安全確保。(国際情勢に対する危機管理)
- ・他校のSGH校と連携し、生徒同士での交流や研究内容を深める場の設定。
- ・中学から段階的に探求学習を行えるようなシラバス作りが必要。
- ・ICTを利用し、教科の垣根を超えた授業を行っていく。現在中学で行っているイマージョン授業に探求学習を取り入れることが可能か検討。
- ・全校生徒に国際的な感覚や視野を普及するため留学生の受け入れ数を拡大。また、海外大学進学を目指す生徒のためのサポート体制を整える。更に地域、保護者、NGO、大学機関と連携していく。

- ・2019年度から全校で探求学習を行い、2020年度からは課題研究ゼミを開講。特進留学コースとSGクラスは引き続き海外フィールドワークを行い、英語と日本語で論文を作成する。

3. 質疑応答・協議

Q. 長期フィールドワークと短期フィールドワークの違いは何か。

A. 長期フィールドワークの場合、1年かけて調査ができるため、研究内容を深めることができる。

また、滞在中何度も軌道修正が可能。しかし、生徒たちが指示通りに課題研究を進めているかという管理部分と生徒の自発性・自主性が重要となってくる。リモートコントロールになるため、常にオンライン上で連絡を取り合わなくてはならない。また、生徒たちのモチベーションを維持することも課題となっている。

短期フィールドワークの場合、調査に不足が出てしまい、帰国後に気づく点が多くなる。長期に比べて事前学習での準備が重要となる。しかし、フィールドワーク中は教員と生徒が一緒に行動するため、その場で調査内容を確認したりアドバイスをしたりすることができる。

4. 意見・提案など

- ・現在地方では、ベンチャー企業や海外から技能実習生受け入れが増えている。しかし実習生への援助が不足するなど課題は多く残っている。グローバルな視野を持ちながらローカルで活躍できる人材が求められている。将来的に卒業生の中からグローバルな視点を持ち、ローカルで活躍できる人材が育って欲しい。
- ・大学で課題研究を行う場合、予備知識がないまま課題研究を進める学生もいる。(例えば、自身の掲げたテーマに関して、NGOや自治体がどのような取り組みをしているか、制度や法律上はどうなっているかなど)事前学習の中でフィールドワークに対してや課題研究についての予備知識を教員が与える必要がある。
- ・今回優秀賞を受賞した生徒の課題研究を学校全体でミニプロジェクトとして取り組んでみるのはどうか。アクションプランと立てた内容や学んだことを実施できる場を設けることが大切。
- ・海外でフィールドワークをする場合、日本との比較を入れてみるのはどうか。海外フィールドワークで得た内容を日本の地域で同じ調査を行ったり、日本での社会問題と海外と比較してみたりすることも必要。
- ・留学生を受け入れる場合、日本語の補習をしっかりとサポートできる体制を整えることが重要。特に今後は高等教育からの日本語教育が必要とされている。高校時代に日本語だけでなく日本の文化やマナーを教えることで留学生たちが日本での進学や就職につながることができる。そのためには、日本の生徒たちも海外だけに目を向けるのではなく、日本の文化や伝統、環境やいじめなどの社会問題について説明できるようにするべきである。

(第1部文責:出射見奈子)